

受験番号	
------	--

※記入漏れ注意

群馬パース大学 看護実践教育センター
 認定看護師教育課程 摂食・嚥下障害看護分野
 2019 年度受講者選抜試験

【 専 門 科 目 】

※ 注 意 事 項

1. 指示があるまで開かないこと。
 2. 受験番号を必ず問題用紙表紙上部の欄に記入すること。
 3. マークシートには「氏名」を記入し、「番号」に受験番号を記入・マークすること。正しく記入・マークされていない場合は採点できないことがあるので注意すること。氏名・番号・解答記入欄以外の欄には記入しないこと。
 4. 記述問題は別紙<記述用解答用紙>に解答すること。また、<記述用解答用紙>にも受験番号・氏名を必ず記入すること。
 5. その他の解答は、マークシートの解答記入欄にマークすること。解答方法は次の通りである。
 問題文中に2つ選べと記述のある問題は、選択肢のうち質問に適した選択肢を2つ解答記入欄にマークすること。それ以外の問題は、選択肢のうち質問に最も適した選択肢を1つ解答記入欄にマークすること。
- 例えば、1の問いに対して解答する場合は、**解答番号1**の**解答記入欄**にマークすること。

解答 番号	解 答 記 入 欄									
1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(例) ③と解答する場合

解答 番号	解 答 記 入 欄									
1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(例) ①と③の2つ解答する場合

6. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及びマークシート・記述用解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
7. 問題用紙の余白等は適宜使用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了後、問題用紙・マークシート・記述用解答用紙は回収する。

以上

問1 仮性（偽性）球麻痺を生じる疾患はどれか。

1

- ① 延髄外側症候群を生じた脳梗塞
- ② 筋萎縮性側索硬化症
- ③ 筋ジストロフィー
- ④ 重症筋無力症

問2 耳下腺の分泌を司る神経はどれか。

2

- ① 三叉神経
- ② 顔面神経
- ③ 迷走神経
- ④ 舌咽神経

問3 大臼歯は智歯（親知らず）を入れて片側の上あるいは下のみで何本か。

3

- ① 2本
- ② 3本
- ③ 4本
- ④ 5本

問4 嚥下の際に咽頭の鼻部と口部を隔てるのはどれか。

4

- ① 硬口蓋
- ② 軟口蓋
- ③ 喉頭蓋
- ④ 鼻中隔

問5 高齢者の蛋白質・エネルギー低栄養状態 protein energy malnutrition (PEM) について正しいのはどれか。

5

- ① 体脂肪の消耗はみられない。
- ② 要介護度が高いほど発症率が高い。
- ③ 原因は心疾患によるものが最も多い。
- ④ 血清アルブミン 3.7g/dl 以下は低栄養のリスク状態である。

問6 75歳女性。数年前に脳梗塞を発症し右片麻痺があるが、自宅で生活していた。4日前から発熱し、誤嚥性肺炎と診断され入院した。入院時の所見で最も可能性が高いのはどれか。

6

- ① 頸静脈の怒張
- ② 水泡音の聴取
- ③ 笛音の聴取
- ④ 胸郭の前後径と左右径とがほぼ等しい

問7 頭頸部がんについて、誤っているのはどれか。

7

- ① 喫煙が危険因子となるものが多く、食道がんや肺がんと重複がんがある。
- ② 化学放射線治療は嚥下障害の増悪因子になる。
- ③ 頸部に病変が及ぶ場合、術後に肩関節機能障害へのリハビリテーションを行う。
- ④ 創部の安静のため、術後2～3カ月は経口摂取を行わない。

問8 座位での食事介助における注意点として、誤っているのはどれか。

8

- ① 湿性嘔声の有無を確認する。
- ② 患者の足底が床に着くようにする。
- ③ 患者の頸部を伸展する。
- ④ 覚醒状態を確認する。

問9 神経筋疾患について、誤っているのはどれか。

9

- ① パーキンソン病は、痙縮を生じる。
- ② シャイ・ドレーガー症候群は、自律神経障害を生じる。
- ③ ギラン・バレー症候群は、呼吸障害を生じる。
- ④ 筋萎縮性側索硬化症は、嚥下・構音障害を生じる。

問10 反復唾液嚥下テストの判定で、正常と判断する基準はどれか。

10

- ① 15秒間に1回以上の嚥下ができる。
- ② 15秒間に2回以上の嚥下ができる。
- ③ 30秒間に2回以上の嚥下ができる。
- ④ 30秒間に3回以上の嚥下ができる。

問 11 脳梗塞の治療について、誤っているのはどれか。

11

- ① 脳梗塞の急性期では、血圧が高い場合、正常血圧を目指して降圧する。
- ② 脳梗塞の超急性期では、組織プラスミノゲン活性化因子を用いる。
- ③ ラクナ梗塞の慢性期では、抗血小板薬を用いる。
- ④ 心原性脳塞栓の慢性期では、抗凝固薬を用いる。

問 12 高齢者の摂食嚥下に影響する因子として、誤っているのはどれか。

12

- ① 味覚閾値の低下
- ② 喉頭位置の低下
- ③ 咳嗽反射の惹起性低下
- ④ 嚥下反射の惹起性低下

問 13 嚥下の際に重要な役割を果たす軟骨はどれか。

13

- ① 甲状軟骨
- ② 喉頭蓋軟骨
- ③ 披裂軟骨
- ④ 輪状軟骨

問 14 食道について正しいのはどれか。

14

- ① 粘膜上皮は重層扁平上皮である。
- ② 筋層はすべて平滑筋である。
- ③ 2ヵ所で狭窄している。
- ④ 第1胸椎の高さで咽頭から移行する。

問 15 小児の摂食嚥下障害の分類と原因の組み合わせで誤っているのはどれか。

15

- ① 未熟性 — 超低出生体重児
- ② 解剖学的構造の異常 — 小顎症
- ③ 咽頭・食道機能障害 — 食道炎
- ④ 精神・心理的問題 — アカラシア

問 16 脳性麻痺について、正しいのはどれか。

16

- ① 病型は、アテトーゼ型が最も多い。
- ② 原因として、低酸素性虚血性脳症がある。
- ③ 筋緊張の亢進は、嚥下機能に影響しない。
- ④ 抗てんかん薬の増加は、嚥下機能に影響しない。

問 17 70 歳男性。右利き。右被殻に脳内出血を発症し、約 2 カ月が経過した。次の高次脳機能障害のうち、テーブルに準備された食事を摂る際に、最も影響するのはどれか。

17

- ① 観念運動失行
- ② 注意障害
- ③ 記憶障害
- ④ 遂行機能障害

問 18 脳血管障害で見られる高次脳機能障害について、正しいのはどれか。

18

- ① 左中大脳動脈領域の脳梗塞で、左半側空間無視は生じない。
- ② 右中大脳動脈領域の脳梗塞で、失行は生じない。
- ③ 左中大脳動脈領域の脳梗塞で、失語と構音障害が同時に生じることはない。
- ④ 右中大脳動脈領域の脳梗塞で、左半側空間無視と病態失認が同時に生じることはない。

問 19 摂食嚥下の 5 期のモデルについて、誤っているのはどれか。

19

- ① 先行期は、食べ物を認識し、口まで食物を運ぶ段階である。
- ② 準備期は、食物を捕食し、食塊を形成する段階である。
- ③ 咽頭期は、食塊を口腔から咽頭へと送り込む段階である。
- ④ 食道期は、食塊を食道から胃へ送り込む段階である。

問 20 咽頭感覚や運動に関わる脳神経はどれか。2 つ選べ。

20

- ① 三叉神経
- ② 顔面神経
- ③ 迷走神経
- ④ 舌咽神経

問 21 口唇、頬と歯列弓との間の空間について正しいのはどれか。

21

- ① 固有口腔
- ② 口腔底
- ③ 歯槽
- ④ 口腔前庭

問 22 高齢者の脱水の原因として、正しいのはどれか。2つ選べ。

22

- ① 渇中枢の感受性の低下
- ② 骨量の減少
- ③ 腎の尿濃縮力の低下
- ④ 細胞外液量の減少

問 23 咀嚼について正しいのはどれか。

23

- ① 唾液は関与しない。
- ② 不随意運動である。
- ③ 三叉神経が関わる。
- ④ 顎関節は下顎骨と上顎骨で形成される。

問 24 次の組み合わせで誤っているのはどれか。

24

- ① 向精神薬の長期服用 — 咽頭反射の低下
- ② 精神発達遅滞 — 異食行為
- ③ 重度アルツハイマー型認知症 — 食欲亢進
- ④ 切迫的摂食 — 窒息

問 25 次の認知症を来す疾患のうち、パーキンソン症状による摂食嚥下障害が最も生じにくい疾患はどれか。

25

- ① アルツハイマー病
- ② 脳梗塞
- ③ レビー小体型認知症
- ④ 進行性核上性麻痺

問 26 脳血管障害について、誤っているのはどれか。

26

- ① アテローム血栓性梗塞は、ラクナ梗塞よりも高次脳機能障害を生じることが多い。
- ② 心原性脳塞栓は、ラクナ梗塞よりも急性期に出血を生じることが多い。
- ③ くも膜下出血の急性期に脳梗塞がみられた場合、脳血管攣縮が原因であることが多い。
- ④ 脳内出血の側脳室への穿破は、視床よりも被殻の方が多い。

問 27 三叉神経に支配される筋はどれか。

27

- ① 咬筋
- ② 頬筋
- ③ 口輪筋
- ④ 舌骨舌筋

問 28 味覚を伝える神経はどれか。2つ選べ。

28

- ① 三叉神経
- ② 顔面神経
- ③ 舌咽神経
- ④ 舌下神経

問 29 摂食嚥下障害を増悪させる可能性のある薬剤はどれか。

29

- ① アンギオテンシン変換酵素阻害薬
- ② レボドパ
- ③ リスペリドン
- ④ シロスタゾール

問 30 68歳男性。前頭側頭型認知症で、介護老人福祉施設に入所している。時々、隣の席の人のおやつを食べるため、トラブルになることがある。この症状はどれか。

30

- ① 脱抑制
- ② 記憶障害
- ③ 常同行動
- ④ 物盗られ妄想

以下の問題は、＜記述用解答用紙＞に解答すること。

問 31 次の文章中の (①) ～ (⑩) に当てはまる適切な語句を【語群】から選び、記述用解答用紙に解答せよ。

- ・平成 28 年「人口動態統計」による日本人の死因順位は、第 1 位「(①)」、第 2 位「(②)」、第 3 位「(③)」、第 4 位「脳血管疾患」、第 5 位「老衰」である。
- ・「看護者の倫理綱領」(日本看護協会 2003 年)の前文には、看護の目的として、健康の保持増進、疾病の予防、(④)、(⑤)を行い、生涯を通してその人らしく生を全うできるように援助を行うことが掲げられている。
- ・認知症の人や障害者など、自己の権利を表明することが困難な人の権利や利益を擁護し、代弁することを (⑥) という。
- ・(⑦) 制度は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な人が、財産管理、契約締結、遺産分割協議などを行う場合に保護し、支援をする制度である。
- ・高齢者においてよく認められる、骨格筋減少や食欲低下による低栄養状態を (⑧) という。
- ・運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態を (⑨) という。
- ・日本看護協会が認定する認定看護師の役割は、特定の看護分野における水準の高い看護の実践、ならびに看護職に対する指導および (⑩) である。

【語群】

アドボカシー	メタボリックシンドローム	ロコモティブシンドローム
ノーマライゼーション	フレイル	コンサルテーション
苦痛の緩和	肺炎	不慮の事故
悪性新生物	健康の回復	療養上の世話
アサーション	腎不全	安らかな死の援助
自立支援	診療の補助	心疾患
成年後見		